

花ちゃん、オー君、モンタ博士、ミツバチのかくかくドドドド立ててく

国立市立国立第七小学校

平成29年10月27日 NO.63 (463)

オー君 「あれあれ、これはアシナガバチだ。」

3年生U君 「アシナガバチも拾ったんだ。いま
ひょうほん つく
標本を作っているところだよ。」

花ちゃん 「わたし、ちょっとこわいわ。」

オー君 「だいじょうぶだよ。モンタ博士の
はなし き
話をよーく聞いて、アシナガバチ
についての正しい知識をもとうね。」



モンタ博士 「アシナガバチがどのような生活をするか、みんなで考えてみよう。」

3年生 「やっぱり冬は、アシナガバチはいないのかな。」

モンタ博士 「そうだね。ミツバチをのぞいてほとんどのハチは、冬は活動しないね。」

3年生 「それじゃ、アシナガバチはどこにもいないということなの。」

モンタ博士 「冬の間は、右の写真のような木の
かわ すきま などにかくれているんだ。
そして、春になると目ざめるんだ。
この時のハチは全部メスバチで、
お母さんバチなんだよ。」



3年生 「オスのハチはいないの。」

モンタ博士 「オスはいないんだ。たった1匹の
お母さんバチが巣を作り、たくさんの幼虫を育てるのさ。」

3年生 「まず始めに、何をするの。」

モンタ博士 「冬眠中に使いはたしてしまっただけのエネルギーを得るために、何かするんだけど、
どうするんだろうね。考えてごらん。」

3年生 「エネルギーを何とかしなくちゃならないな。」

3年生 「ハチにとってのエネルギーといえば、花の蜜かな？」

モンタ博士 「そのとおりだね。蜜をたくさんなめて、元気いっぱいになったら、まず、巣づくりだね。」

3年生 「アシナガバチの巣の材料は何なんだろう。」

モンタ博士 「材料を考えることは大切だね。アシナガバチの巣の材料はね、かれた木や草なんだ。」

3年生 「かれた木や草ですか。」

モンタ博士 「そうなんだ。雨や風にさらされたざらざらの木などさ。それを少しずつ少しずつするどい『あご』でかじり取ってひとまとめにするんだね。」

3年生 「そのあと、巣にするの。」

モンタ博士 「まあまあ、そんなにあわてないでおくれ。アシナガバチのお母さんは、それをさらにかみ続けるうちに、繊維のかたまりはどろどろになるんだ。このどろどろのかたまりにはね、ハチの唾液もまじっているんだね。それで、より強く丈夫になるということだね。」

3年生 「ねえねえ、私たちが使う紙も、材料は植物の繊維でしょ。」

3年生 「うん。それがどうかしたの。」

3年生 「つまり、アシナガバチの巣は、紙とほとんど同じような材料でできた、紙の巣というわけですね。」

モンタ博士 「さすが3年生だね。よく気がついたね。くわしく言うとね、アシナガバチは日本の『和紙』みたいなものといってもいいかもしれないね。ある本には、大昔の人がアシナガバチの巣づくりの様子から、紙づくりのヒントを得たのではないかとされているんだ。」

3年生 「ふーん。そうなんだ。自然の姿から、人間はいろいろと学んできたんですね。ところで、そのあと、巣づくりはどうなるの。」

モンタ博士 「続きは、また今度ね。」